

# 小島保育園 との交流会



第116号  
発行

〒970-8003  
いわき市平下平窪字熊ヶ平6番地  
TEL (0246) 23-5311  
FAX (0246) 23-5312  
はまぎく荘新聞編集委員会  
HP <http://hamagiku.i-fukuin.com>  
E-mail: [kuma-house@mx5.et.tiki.ne.jp](mailto:kuma-house@mx5.et.tiki.ne.jp)

### ●紙面紹介●

- 1面 小島保育園との交流会  
夏祭り
- 2面 コロナ禍に思う  
はまぎく荘でのコロナ対策
- 3面 コロナ対策による行事の変化
- 4面 半年間働いてみて/利用者へのインタビュー/防災の取り組み/炊き出し訓練/料理教室/嗜好会議/編集後記



## ジャガイモ掘り

七月二日、同法人の『小島保育園』の園児二十一名と職員、『はまぎく荘』の利用者七名と職員が参加し、はまぎく荘のビニールハウスにて、交流会として『ジャガイモ掘り』が開かれました。このコロナ禍で、なるべく密にならないよう交流を図るにはどうしたらいいかな?と悩みましたが、利用者にとっては地域の子供たちと触れ合える楽しみにしているイベントなので、中止はせず、マスク、消毒を徹底し、グループ

分けをして少人数ずつジャガイモを掘る事が実施することが出来ました。蒸し暑い中、額に汗を浮かべながらの

## 夏祭り



今年のグループ旅行はコロナウイルスの影響のため、残念ながら中止になりました。その代わりに、はまぎく荘で夕食後の暗くなってきた頃、

イベントとなりましたが、いざ芋掘りが始まると暑さなんてなんのその!!汗だくになりながら宝探しのごとく夢中になって土を掘り起こしてしましました。ジャガイモの葉の付いた茎を引っ張ると、その下からは小っちゃくて可愛らしいジャガイモが……!!こんな葉っぱの下にジャガイモって

今年で楽しみ、お開きとなりました。普段ならば体験することが難しい花火や、暗い時間の活動。利用者にとって、素敵な夏の思い出となれば幸いです。

出来るんだ!!と驚きを隠せません。ハウスのあちらこちらから「わあ、おっきい!!」あつた〜と元気な声が飛び交っていました。

芋掘りを通じて子供たちと触れ合い、また、障害のある方を身近に感じられる良いきっかけになったのではないのでしょうか。

徐々に出店が並び始めます。ハッピーやハチマキをして準備万端。手作りのお神輿を囲んでいわき踊り。その後はカラオケ大会やくじ、ヨーヨー釣り等アトラクションを楽しみました。クレープや大判焼きといったおやつも出て、気分はまさにお祭りそのものでした。最後に花火をみ

# コロナ禍に思う



日々の暮らしの中でよく聞くコロナウイルス。はまぎく荘でも様々な対策をしています。行事内容の変更や、日課の変更といった大きなことから、手指や棟内の消毒等、新しい生活様式が通常となってきました。職場だけでなく、プライベートでも意識せざるを得ないコロナウイルス。職員はどういったことを行い、どういった想いで生活しているのでしょうか。

▼コロナウイルス禍に思うこと。皆さん手洗い、消毒、密集を避ける生活と日常が変わり、戸惑い、迷う事ばかりではないでしょうか。私たちが戸惑いながら感染予防対策をしております。こんなコロナの日常に、大切なのは支えあうことではないでしょうか。

▼新型コロナウイルスの鎮静化はまだまだ先のようにです。今後も感染拡大防止のため、手洗い、マスク、消

毒といった生活が日常になるでしょう。今回の出来事の中で改めて日常の意味、家族の存在、仕事の尊さ……等々足元を振り返ることができたことを無駄にせず、成長していくことができればと思います。

▼手洗い、うがい、消毒。今ほど意識して行ってきたかと思うと、そうではない気がします。これまでの生活とは違った部分が多くなっています。気付かされるどころや、直すべき点が改めて発見される機会になったように思います。

▼コロナウイルスに限らず、インフルエンザなどの感染症の恐ろしさを改めて感じ



させられました。手洗いや消毒・不要の外出はしないなど、日々のちょっとした行動に気を付けることの大切さに気付くきっかけにもなったと思います。

▼コロナ、初めて聞いた時、関係ないなと感じたのを覚えています。時が経つ毎に海外↓日本↓県↓市と徐々に身近なものとなってくる恐怖を感じました。第二波の影響を感じつつ自分の身を守る事に努めようと日々感じております。

▼コロナウイルスの流行によって、人の気持ちや行動の変化を良くも悪くも感じています。ウイルスの対策や情報収集をこまめにしながら、利用者さんも自分自身も、新しい楽しみを考え、笑顔を増やせたらと思います。

▼我々職員も、消毒や外出自粛に追われている中利用者にも様々な制限をしていただいています。利用者には「マスクしましょう。消毒してからね」と何度も声掛けし

ており、窮屈な生活、いわゆる新しい生活様式で過ごしている利用者にも申し訳なさを感じます。しかし命には代えられません。いつかコロナが治まった時にマスクを外し、笑い声を響かせられることを夢見て、新しい生活様式で過ごしていきます。



## はまぎく荘でのコロナ対策



新型コロナウイルス感染症、県内でも油断が来ない状況になってしまいました。はまぎく荘では四月から六月まで昼食時間月から六月まで昼食時間を男性と女性で分けたり、普段のような外出や帰省を行わないことしたりとしていました。外出については、インフルエンザ予防の観点から、十二月よりおこなえていないため外に出られないストレスもあり、五月から少人数でのドライブを実施し、ドライブスルーでドリンクを楽しむなど行ってきました。七月からは面会や帰省も制限を設け行うこととし、買い物外出はマスクがつけられる人のみ出掛けるように配慮しています。しかし、この買い物も、以前のようにフードコート等で軽食を楽しむ事はできず、買ってきたお菓子やジュースを車中で食べていただいています。マスクをつけるのが難しい方は、法人内のカフェを貸し切り、ティータイムを楽しんでいただいています。荘内では、手洗い・手指消毒・マスクの着用・こまめな水分補給と換気・一日二回の検温・こまめな荘内消毒を行い、感染予防に努めています。

職員もウイルスを持ち込まないようにと、一日二回の検温・マスクの着用を徹底しています。今後も健康で楽しく暮らしていけるよう、努めてまいります。

# コロナ対策による

# 行事の変化

## 面会日

本来の面会日は、利用者さんとご家族の交流の場であり、普段の姿を見て頂く場です。しかしここにも新型コロナウイルスの影響が……。居住棟での関わりを避けて頂き、マスクを外すこともできず、なんとも窮屈な面会となっていました。



それでも利用者さんは、ペットボトルを使用してのボウリング大会・タイやヒラメやクジラやペンギンまで釣れる魚釣りゲームを行い、明るい笑い声が響きました。

## 遠足

例年と比べ、外出や帰省の機会も減り、我慢することが多い利用者の皆さんですが、首にはレイを、手には景品を受け取ると満面の笑みを見せてくれました。小さな楽しみを一つでも多く提供することが、我々の支援に大切なことを再確認しました。



七月、遠足行事を行いました。本来ならば公園などでのびのびと楽しみたいところでしたが、感染対策の観点から

## 自治会選挙

体育館で行うことに。3密や熱中症など、気を付けることがたくさんある今年の夏。特大ボウリングや玉入れに挑戦し、皆さん思い思いに楽しんでいました。昼食は特製弁当を食べ、午後の部へ続きます。後半はクールダウン……と思いきや、紙芝居や手遊びうたも大好評。今後も新しい生活様式のもと、よりパワーアップした行事を企画していけたらと思います。

今年の自治会の顔となる役員を選ぶ自治会役員選挙。今年は新型コロナウイルスの影響もあり、二か月遅れの六月に開催されました。久しぶりのイベント感もあり、利用者も心なしかわくわくした様子。3密を避けるため、渡り廊下に椅子を並べた演説会では各候補者が「宜しくお願ひします！」と気合の入った演説を行いました。開票を進めると、なんと会長立候補者が三名とも同票、副会長も同票となり、再投票！無事役員も決まりとても盛り上がった選挙となりました。

### 会長



立野 淳子さん

### 副会長



出崎 一彦さん

### 書記



佐藤トモ子さん



吉田 茂さん



三瓶 徳子さん

宜しくお願ひします！

## ドライブ



コロナウイルスの影響で様々なことが中止となり、利用者の皆さんもストレスを感じています。少しでもリフレッシュできるようなドライブでの外出を行いました。ドライブスルーや予め用意した飲み物やお菓子を食べながら景色を眺め外の空気を感ずることができ、気分転換になったのではないのでしょうか。早くいつものようにお出かけできる日が来るといいですね。



## 半年間 働いてみて

支援員 阿部慎太郎

半年間はまぎく荘で働きました。様々なことについて学ぶことができました。私は大学で障がい福祉について学んできましたが、講義や演習で学べなかつたことや、障害者支援施設での介護とはどのようなものかという内容が学べました。入職してまだまだ日は浅いですが、これからさらにこのはまぎく荘で学んでいき、これからも障がい福祉について研鑽を重ねていきたいです。

## 利用者への インタビュー



◆金子俊哉さん

「マスクはかっこ悪いなあ」  
食事や睡眠の時以外は、できるだけマスクを着用してもらっています。息苦しいとは思いますが、命や健康には変えられません。



◆山崎秀男さん

「早くなくなつてほしい」  
日々のニュースの中でたくさん出てくる『コロナウイルス』。本人なりに、もちろん他利用者も自分なりに様々なことを感じているようです。

◆滝口亜紀さん

「旅行行きたい」  
大きな楽しみの一つである日帰り旅行、一泊旅行が今年中止となりました。代替えとしての行事はあったとしても、毎年楽しみにしている旅行がなくなるのはとっても悲しいことです。

◆佐藤トモ子さん

「うちさ帰りたい」  
面会や帰省等、施設の人以外の人のかかわりを制限させていただいています。いわき市外の利用者もたくさんいますので、電話や手紙を通じて家族とのかかわりを取っています。

## 防災の取り組み

近年、大きな災害として、地震・火災以外に豪雨・土砂災害・川の氾濫も深刻な問題になってきていると思います。そこで、利用者さんたちが災害に対してどのように対処するか、どう自分の身を守るのか、職員がどのように支援するか、この観点の強化を図っています。去年の台風十九号の教訓から、職員の出が少

## 炊き出し訓練

ない時でも落ち着いて行動できるような、夜間の避難訓練を多く実施しています。さらに、非常食の炊き出し訓練や、防災倉庫の見直しも図り、今の利用者さんに合わせたものを揃えました。

災害大国日本。台風十九号の悲しい記憶はまだ新しいです。何らかの事情で職員や業者が、はまぎく荘へ来るこ

## 料理室

例年に引き続き、好評の料理教室。前年度は月一回の所、メンバーを増やし月三回実施して

います。料理教室ではみなさんが好きな甘いものを多く取り入れ作っています。また、料理教室の日は、男子も女子も楽しみにしているらしく本人からは「今日何作るの？楽しみだね」、または支援員から「今日の料理教室楽しみみたいで、朝からずっと言っていますよ！ニコニコしています」との声をよく聞きます。そのことをばと聞くと私も嬉しくなり、また喜んでもらえるように頑張ろうという気持ちになります。一回目は、バナナアイスやワッフルで挟み、溶かしたチョコレートをかけるといった簡単な作業ですが皆「こうやるの？」と聞きながら一生懸命つくり、口の周りを黒くしながらおいしい、おいしいと食べてくれました。今後も利用者さんが、楽しみながらおいしく食べられるメニューを考えていきたいと思っています。

## 嗜好会議

七月から、食事をよりおいしく食べて頂けるように新たに、嗜好会議を始めました。メンバーは男子二名、女子二名の利用者さんと職員四名で、好きな食べ物、食べたものの、今まで食べておいたものを聞き取りしています。聞き取りをするにあたり、どのようにすれば具体的な好みを把握できるか、考えた結果文字と写真、声掛けで選んで頂くことにしました。すると皆さん写真を見ながら、次々に「あつ、これ！」と目を輝かせて教えてくれました。現在人気ナンバーワンは、ハンバーグ。第二位はとんかつと続き、そしてどの利用者さんも一番盛り上がる食べ物です。デザートで、デザートの写真になるとより一層目を輝かせて指さして教えてくれました。デザートはなかなかに人気があんこを使ったものが多く、たい焼き、大福、団子とどんどんできてきます。利用者の希望をできるだけ取り入れることができるよう努めます。

## 編集後記

コロナの影響で様々な制限はありますが、普段とは変わった活動を楽しむ利用者の顔を見ると、これもまた良い経験なのかな、と前向きに思うことができます。終わりの見えないコロナ対策の日々ですが、出来る限りの対策を取りながら、小さな幸せ、喜びを感じていければと思います。広報紙「はまぎく」一一一六号を高覧ください。◎